

海老名市議会議員

涼風（すずかぜ）の会
議会報告

吉田 みな子 レポート

〒243-0433 海老名市河原口 1-7-12-201
TEL:090-1820-3000 FAX:046-289-2014
E-mail: mina@y.zaq.jp HP:https://www.yoshidaminako.jp/

▼1面：エネルギーの地産地消▼2・3面：学校にエレベーターを / 田んぼを活かすまちづくり▼4面：LGBTQ 支援

エネルギーを 地域でつくり地域で使おう！

海外依存のエネルギー政策の転換を海老名から

イラン戦争の影響は 海老名市にも

2月末から始まったイラン戦争による影響は、海老名市にも出ています。6月議会で有料の指定ゴミ袋の製造単価が約3割値上がりして補正予算が組まれました。また、来年1月に利用開始予定だった「障がい者ケアセンター」が、防水材の納品見込みが立たず工期が延びたことが報告されました。

日本はエネルギー資源の約9割を輸入に依存し、そのうち原油の9割以上を中東地域から輸入しています。中東情勢の悪化は、私たちの暮らしや地域経済に直接的な影響を及ぼしており、エネルギー資源を海外依存している日本は、平和だからこそ成り立っていることを痛感します。そして、海外の情勢によってエネルギー価格や物価が大きく左右される現状から転

換することが必要だと改めて思います。

海老名市のエネルギー 政策の実態

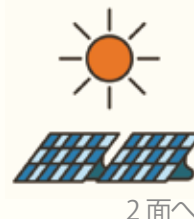
今回、一般質問ではエネルギーを地域でつくって使う「地産地消」を進めることを求めました。「海老名市第3次環境基本計画」では、海老名市は、太陽光発電のポテンシャルが高く建物への太陽光発電を優先的に導入するとし、小水力や地中熱は太陽光発電をサポートする再生可能エネルギーとして位置付けています。自家消費を推奨していることから、実は海老名市では太陽光発電を中心に再生可能エネルギーの地産地消を進めていく方針です。

現在は、個人宅への太陽光パネルや蓄電池などの補助金制度があり、今後は、次世代型太陽

電池など新たな技術の動向も踏まえ、補助制度内容の見直しや普及促進をしていくとの回答がありました。質問では、さらに公共施設への太陽光発電の導入を進めていくことを求めました。海老名市では、公共施設への太陽光発電設備の設置がほとんど進んでいないのです。

公共施設への導入に向け ガイドラインの作成を

災害時における電力確保ができることから、公共施設に太陽光発電を導入することは有用です。ガイドラインをつくり、公共施設への太陽光発電の導入を求めたところ、市長は「国が太陽光発電にクエスチョンを出し、原子力に移行している。廃棄物問題もあり市が単独で進め



2面へ

ていくのは好ましくない」と、再生可能エネルギー導入に非常に消極的な答弁でした。

しかし、太陽光パネルのリサイクル技術は確立されてきており、廃棄問題を理由に導入に慎重な姿勢は市の環境基本計画の考えとも合いません。再生可能エネルギーの普及促進を掲げる環境基本計画に基づき、導入や廃棄のコスト、自家消費による電気料金の削減効果まで含めて

具体的に調査検証すべきです。エネルギーの地産地消は、災害にも強く、環境にも配慮した持続可能なまちづくりにつながります。公共施設への太陽光発電の導入はその一歩です。

今こそエネルギーの 地産地消を！

杉並区では、市民と行政が一体となって地域でエネルギーをつくり、地域で使う「杉並電力」とい

う構想も提案されています。地域でエネルギーを支え合う考え方は、エネルギーを地域全体で支える公共的な発想であり、災害への備えや脱炭素への具体的な取り組みという点でも参考になります。海老名市でも、地域で電力をつくり地域で使う仕組みを広げ、エネルギーの地産地消を進めていきましょう。引き続き、取り組んでいきます。みなさんのご意見をお聞かせください。

すべての学校にエレベーターを！

フルインクルーシブ教育をかけ声だけにしないために

海老名市は、すべての子どもたちが地域の小・中学校に通い、同じ場で学び育ち合う「フルインクルーシブ教育」を推進しています。その実現には、車いすを利用する子どもをはじめ、移動に配慮が必要な子どもたちが安心して学校生活を送れる環境整備が欠かせません。

海老名駅周辺で人口が増えており、今泉中学校でも生徒数の増加に対応するため、2階建ての校舎が増築される予定です。

しかし、6月議会で、増築校舎の建設について審議した際、エレベーターがないことがわかりました。教育委員会に理由を質問すると、「コストが上昇しており、まずは校舎建設を優先した。エレベーターがあることが理想だが、検討した結果」だと答弁しました。子どもたちが同

じ場で学び育ち合うためには、エレベーターはなくてはならないものです。コストを理由に削ってよいものではありません。

増築校舎の詳細な設計はこれからです。討論では、増築校舎へのエレベーター設置を強く求めました。コストを理由に見送られることがないよう、エレベーター設置を標準とするガイドラインの作成も必要です。

「フルインクルーシブ教育」がかけ声だけにしないために、教育委員会が意思と覚悟を持って取り組むよう、引き続き求めていきます。



高座清掃施設組合議会でも質問時間5分案！十分な議論ができる議会を求めて

6月に開かれた高座清掃施設組合議会（海老名市、座間市、綾瀬市の3市で構成される、ごみ処理を担う一部事務組合。3市から5人ずつ議員が選出されます）で、各市の議長から質問時間を1人5分に制限することが提案されました。

これまで質問は時間制限がなく、3回まで行うことができました。しかし、5分では十分な審議はできません。結論は次回に持ち越されましたが、引き続き、十分な議論ができる議会を求めていきます。